

地域資源“森林”を活用したエネルギー自給型小規模自治体モデルの構築 ～誰もが暮らしたいまち、誰もが活力あるまち～



下川町

〒098-1206 北海道の上川郡下川町幸町63番地
☎01655-4-2511 <http://www.town.shimokawa.hokkaido.jp/>

下川町は豊富にある森林資源を持続可能な循環型森林経営で管理し、林業・林産業が効率的で一貫したシステムを構築しています。それを土台に未利用資源を森林バイオマスエネルギーとして活用して町内公共施設全体の熱エネルギー量の約40%を供給し、低炭素化社会の構築を図っています。また、化石燃料から木質燃料へ転換したことで、林業・林産業が活性化し雇用が創出され、さらに燃料削減コストで新たな子育て支援等を行っています。



審査委員長コメント

「半世紀かけて愚直にやってきた取組みでございます。」

これは下川町のプレゼンテーションの出だしです。危機的状況による日本の過疎地域における、地域資源“森林”の活用によるまちづくりを長年にかけて成功させたことを物語っています。すでにバイオマス先進地として知られる下川町を高く評価した理由は2つです。1つは『結果を出した』こと。すでに人口減少に歯止めがかかり企業誘致にも成功しています。

2つ目は『波及性』です。バイオマスボイラーで上がった収益を子育て支援にあてるなど、地域資源活用で自立経済への好循環の軌道にのり始めた数少ない地方創生時代の先駆的なモデルとなり、波及性を含めると低炭素社会への貢献が極めて高いものです。

次の半世紀、どんな下川町となるのか楽しみにしています。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

名誉ある低炭素杯2015環境大臣賞グランプリを受賞できましたことに対し、ご支援・ご指導を賜りました全国の関係機関の皆さまへ心から感謝を申し上げます。

様々な取組を半世紀にわたり愚直に行った結果、ここ数年で転入者数が転出者数を上回る成果が表れております。今後は世界へ発信できる持続可能な日本のモデル創造のため、町民とともに下川町が一体となって推進して参ります。

今後とも、全国の皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

減装 (へらそう) ショッピング： 無理せず容器包装ごみをへらそう

ごみじゃぱん

〒657-0013 兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学経済学部内第2研究室107号
☎078-803-3005 <http://gomi-jp.jimdo.com>



無理なく低炭素社会に移行することを目指し、学生主体で容器包装ごみの発生抑制活動を行っています。他の商品に比べて容器包装が少ない商品を「減装 (へらそう) 商品」と名付け、スーパーで生活者に選んでもらえるよう目印をつけて推奨しています。減装商品は、実際にスーパーで販売されている商品を購入し、中身と容器包装に分け、重量を計測、軽いもののランキングを付けています。上位30%程度の商品を推奨します。



審査委員長コメント

ごみじゃぱんの取組みは、生活者の意識の変革を促す『減装 (へらそう) 商品』を認定し、それを選んでいただけるように啓発活動を行うとともに、メーカーとも減装商品の共同開発を行っていくという、まさに“仕組み”で容器包装ごみを減らしていくという最良のモデルと言えます。

環境によいことをしている企業が、メリットを享受できる社会をつくる、公的な資金ではなく民間主導でそれをつくり上げていくことは、まさに低炭素社会づくりへ向けて最も大切なテーマです。それが全国に波及し始めていることは大変高く評価でき、今後より一層、国民運動として定着していくことを期待します。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

素晴らしい賞をいただき、大変感謝しています。活動を推進していくにあたり、温かく背中を押して頂いた感じです。

お陰様でさらに頑張らねばと気が入りました。これからも日本の容器包装ごみの発生抑制を目指し、皆さんのお力を合わせながら、推進してまいります。

ありがとうございました。

低炭素社会実現を目指した発電デバイスを開発する 化学生物研究

米子工業高等専門学校 B&C 研究同好会

〒 683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448
☎ 0859-24-5158 <http://www.yonago-k.ac.jp/>



本研究では、エコな発電装置として期待されている燃料電池において、発電部位の要となっている電解質膜に関する新たな提案として卵殻膜の応用を考案し、卵殻膜の主成分であるタンパク質の一般的な性質であるプロトン伝導性を用いることで起電する電池を作り出し、電源として示すための発電性能向上を目指した研究を行いました。



審査委員長コメント

“卵の殻が地球を救う？”

近年、燃料電池が実用化され、水素エネルギー社会がスタートを切ろうとしている中、いまだ残されている課題は効率とコストです。

そんな課題の残る燃料電池の電解質膜に卵殻膜を応用できないか、廃棄物から未来の水素エネルギー社会を支える最先端デバイスを作り出せないかという大変ユニークな取り組みです。この研究開発の評価ポイントは、単に発想がユニークであることだけではなく、発電効率もいよいよ既存の電界質膜を超えるターゲットゾーンが見え始めてきたことです。製造技術や製造のコストなど、実用化にはまだ多くの課題が残ってはいますが、是非実用化へこぎつけビッグドリームを実現させてください。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

私たちは、卵の中身の生命を守るための機能を持っている殻の膜に注目して、この膜を素材とした燃料電池研究を行うことにより新しい現象を見出しました。電気は私たちの生活に必要なものですので、今回は、より低炭素な発電装置を開発するための重要な提案ができたと思っています。今回栄誉ある大臣賞を頂けたことは、研究活動を続けていく上で大きな励みとなりました。科学者・技術者のタマゴとして、今後も低炭素社会の実現に貢献していきたいと考えています。

宇奈月温泉におけるエネルギーの地産地消による 地域活性化プロジェクト

でんき宇奈月プロジェクト

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉 633-1
☎0765-62-1106 <http://www.denki-unazuki.net/>



黒部峡谷の玄関口・宇奈月温泉を世界有数の山岳・温泉エコリゾートとすることを目標に、再生可能エネルギーの地産地消による地域の活性化を進めています。その足掛かりとして、地域の天然資源を活用した小水力発電と、そこから得られた電力を利用する公共バス（低速電動コミュニティビークル）を走らせる域内交通事業を連携し、ガソリン使用量の削減（低炭素型社会の形成）と、温泉街の観光地としての魅力向上に取り組んでいます。



審査委員長コメント

再生可能エネルギーの普及促進は日本としても大変大きな命題ですが、特に小水力発電は今後大きなポテンシャルが期待できます。

でんき宇奈月プロジェクトの高く評価できるところは、この小水力と電気自動車を組み合わせ、売電せずに地域の活性化につなげていること、そしてそれを地域の学校の環境学習に活用しているところです。これは、まさに小水力発電の普及を拒む課題の新たなソリューションと言えるものです。

今後地熱発電もスタートし、まさに再エネを活用した地域活性化モデルのメッカとなることを期待しています。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

この度は、環境大臣賞地域エネルギー部門金賞をいただき、誠にありがとうございます。今後も地域の資源を有効に活用し、再生可能エネルギーの地産地消による地域の活性化を進め、宇奈月温泉を世界有数の山岳・温泉エコリゾートとすることを目標に、低炭素型社会の形成と温泉街の観光地としての魅力向上に取り組んでいきます。また、他地域への波及についても念頭において活動を進めていきたいと考えています。

人と環境に優しい宿づくり

滝の湯ホテル

〒994-0025 山形県天童市鎌田本町 1-1-30
☎023-654-2211 <http://www.takinoyu.com/>



旅館の一番の課題は食品残渣いわゆる食べ残し、その食べ残しを肥料に変えて滝の湯農園で使用し無農薬有機野菜を作りお客様に提供する「循環型有機農法」に取り組んでいます。使用済み割りばしは竹酢液に変えて防虫防菌液に利用、調理場から出た廃油を BDF 燃料に変え送迎用バス燃料に、電気自動車配備、建物屋上で太陽光発電、県と林業公社と協力し「企業の森づくり」実施など人と環境に優しい宿づくりに取り組んでいます。



審査委員長コメント

滝の湯ホテルの取組みの非常に高く評価できる点は、何と言っても『全力』ということです。

「ホテルの食べ残しの有機肥料化とそれによる無農薬野菜づくりとホテルの食事への提供」「割りばしの竹酢液へのリサイクル」「廃食油の BDF 化及び BDF 自動車の導入」「ソーラー発電」「間伐などの促進による企業の森づくりの促進」「携帯電話を活用した電気のダイヤモンドサイドマネジメント」など、この業態としてはできる限りのあらゆる低炭素社会へ向けた活動をしていることが素晴らしい。

社員全員でそして全力で取り組む姿には、本当に心を打たれ、ここに泊りに行きたくくなります。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

このたび、低炭素杯 2015 において企業活動部門金賞をいただきありがとうございます。2 日間に渡る本大会は両日とも一般入場者も多く環境に対する関心の高さを改めて知らされました。

地元メディアも大きく取り上げ県民の皆様にも広く知れ渡ることとなりました。今後は環境への取り組みを積極的に紹介し活動の場を広げ環境大臣賞の誇りを胸に低炭素社会に向けた活動を真摯に取り組んで参ります。

37年間に渡る寒冷地での省エネ木造住宅の普及

北洲

〒981-3341 宮城県黒川郡富谷町成田9-2-2
☎022-348-3672 <http://www.hokushuhousing.co.jp/>



1977年の住宅部門設立以来、冬でも暖かく暮らせること、省エネルギーであること、そして住まいが100年もつということ、この3つをコンセプトに高性能な木造住宅の開発に真摯に取り組んで参りました。その結果、住宅業界のパイオニアとして低炭素社会の実現に貢献し続けています。



審査コメント

豊かな住まいの文化を創るため、寒冷地での省エネ住宅の研究開発や普及に長年に渡り取り組まれている点を評価させていただきました。

— LIXIL CSR・環境推進部 部長 川上 敏弘

受賞者コメント

お客様の幸せと低炭素社会を目指した当社の長年の取り組みをご紹介する機会をいただき、誠にありがとうございます。この賞を励みに、これからも環境負荷の少ない、快適な家づくりを、宮城から全国へ発信していきます。



高校生による美ら島プロジェクト 沖縄の願い、豊かな自然を未来へ残せ！ ～赤土流出を防ぎ、自然環境保全への取り組み～

沖縄県立八重山農林高等学校 環境工学部

〒907-0022 沖縄県石垣市字大川477-1
☎0980-82-3955 <http://yaeyama-ah.open.ed.jp>



沖縄県の国頭マージと呼ばれる赤土は、農作物の育成に必要な不可欠な土壌です。しかし近年、海への流出が深刻な環境問題となっています。海を汚染する赤土は、サンゴの死滅や産業の衰退、地球温暖化へと繋がります。私たちの食を育み、地球温暖化防止にも貢献する赤土、そして豊かな生態系を育む青い海、豊かなサンゴ等、美しい自然環境を次世代に残すため、地域や研究機関と連携を取り土壌流出を抑止する研究に取り組んでいます。



審査コメント

高校生が主体的に研究し、県や市、地元の協議会を巻き込んだ取り組みというのが評価の点でした。

— セブン-イレブン記念財団 地域活動支援事業マネージャー 小野 弘人

受賞者コメント

短い時間の中で、今まで研究したことを発表することは難しく困難でしたが、最優秀地域活性化賞という立派な賞をもらえ、多くの方に私たちの言葉が届いたと思うと嬉しい気持ちでいっぱいです。これからも頑張ります。



「家庭」と「会社」で、エコプログラム (従業員に優しく、役員に厳しいCO₂削減活動)

ファンケル

〒231-8528 神奈川県横浜市中区山下町89-1
☎045-226-1943 <http://www.fancl.jp>



従業員に対し、CO₂削減で「いちばん遅れているのは家庭」という問題に着目。6か月を1期間とし「家庭」の光熱費が総務省の世帯別全国平均より下回れば、会社から従業員に「褒賞金」を出す仕組みを日本で初めて導入。2008年から実施中。一方、会社の年度のCO₂削減目標に対し、CO₂削減計画未達の場合、「役員報酬の固定給＝生活給をカット（環境報酬）」を導入。2008年から実施しています。

審査コメント

「従業員に優しく、役員に厳しいCO₂削減活動」と明快なコンセプトで、効果的なCO₂削減に取り組んでいるところを評価させていただきました。

—— オルタナ 代表取締役・編集長 森 摂

受賞者コメント

このたびは、オルタナ最優秀ストーリー賞にご選出いただきましてありがとうございます。今回の受賞は、従業員が日々の生活の中で家族と協力し合い頑張ってくれた結果です。

これからも従業員を巻き込んで、楽しみながら取り組める新たな施策を考えて更に上位の受賞目指して日々の業務に取り組んでいきたいと思えます。



「伝えて広げる」kyoのながよんエネルギー学習 ～生ごみ堆肥×グリーンカーテンネットワーク～

京都府長岡京市立長岡第四小学校

〒617-0843 京都府長岡京市友岡1-2-4
☎075-953-4004 <http://www.edu.city.nagaokakyo.kyoto.jp/naga4-e/>



児童の提案で始まった家庭と給食の生ごみ集め。今年度はエネルギー学習に組み込み全校児童で生ごみ堆肥でゴーヤの苗を育てました。生ごみを持って来ていただいた地域の方に苗をお渡しし、水やりは地元企業の廃材を利用した雨水タンクを活用するなど工夫し、校区にグリーンカーテンネットワークを構築しました。4年生と5年生は公開授業で学習の研究結果を保護者と低学年に伝え、6年生は成果をまとめて行政に政策提言を行います。

審査コメント

取り組みはもちろん、「伝えて広げる」活動が素晴らしい。そして、何より子供たちの発表に感銘を受けました。

—— 気象キャスターネットワーク 事務局長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

学校の4年生みんなが低炭素杯2015に行きたい、そんな思いを背負い発表しました。

CO₂を減らすことは子どもでもできることを全国に発信できたと思います。目立たない取組ですが、これからも多くの仲間とともにやりたいです。



自然とふれあう、環境保育

神奈川県労働福祉協会 川崎市大師保育園

〒210-0825 神奈川県川崎市川崎区出来野 1-17

☎ 044-266-7939

<http://www.zai-roudoufukushi-kanagawa.or.jp/daisi-hoiku.html>

当園の環境保育の取り組みにより、多くの子どもたちの自然とのふれあい（自然共生）、継続的な取り組みによるCO₂の削減（低炭素）、ものの大事さを知ることが出来る3R（資源循環）推進など、環境保全の取組として、園全体で「環境保育」を実践しています。さらに園児の保護者たちへの啓発を通じ、地域への普及促進にも取りくんでいます。すべての活動を合わせ、年間CO₂を約368.42kg削減達成！

審査コメント

子どもたちがおもいっきり遊ぶことで環境への興味が芽生え、意識が育まれる点を高く評価させていただきました。

—— タカラトミー 社長室環境課 課長 高林 慎享

受賞者コメント

この度は最優秀次世代賞を頂き、誠にありがとうございました。

これからもこの賞を励みに、子どもたち一人ひとりが日々の生活の中で“自然を大切にしよう”と感じられるようにしたいです。子どもこそ未来！



「TOKIWAの森から地域再生ESDプロジェクト 0円の森完成」

常磐大学

〒310-8585 茨城県水戸市見和 1-430-1

☎ 029-232-2511 www.tokiwa.ac.jp

常磐大学の学生たちが、大学の地域に跨がって広がる「常磐の森」の放置され荒れた森や湿地を、地域と協働して低炭素な手法で環境整備し、ホタルを復活させる活動に昨年からの取組んでいます。市や県の協力を得た今年度は、ホタルと触れ合える散策路作りを推進すると共に、水戸市内のホタル復活運動のネットワーク化を目指し、6月にはホタルの公開観察会を実施、7月からはホタル復活のための連続公開講座を大学で開催しています。

審査コメント

地域に夢を与える取組であり、周囲を巻き込むことで実行力を高め、子どもにも機会を与えている点に感銘を受けました。

—— 損保ジャパン日本興亜環境財団 事務局長 更井 徳子



受賞者コメント

協力して頂いた方々へのお礼、知事や市長への受賞報告と、慌ただしくも晴れがましい毎日です。ホタル再生を推進するため、三月の合同シンポジウムの開催準備や近隣小学校との連携の方も、頑張っているところです。

地球温暖化から食料を守れ！～究極のエコ資材の開発～

静岡県立富岳館高等学校 農業クラブ

〒418-0073 静岡県富士宮市弓沢町732番地
☎0544-27-3205 <http://www.fugakukan-h.sakura.ne.jp/>



キノコから新たな植物成長調節物質「アザヒポキサンチン・AHX」を抽出した。AHXは紙の廃材「ペーパースラッジ」と混合し、第3のエコ資材「AHXチップ」を完成させました。私達は地球温暖化に対応すべく、「AHXチップ」によるトマトの耐暑性を検証し、その有効性を認め、AHXチップのトマト栽培への導入により、温室内での換気扇や冷房の使用量を抑え、二酸化炭素削減に貢献しました。

審査コメント

地域の農業と温暖化防止に役立つ土壌改良資材を、地域と連携して開発し、実用まで実績を重ねてきた好事例であるところを、評価させていただきました。

—— キリン 環境推進部環境情報担当 主査 山村 宜之

受賞者コメント

「KIRIN 最優秀学生チャレンジ賞・オーディエンス賞」をいただき感謝申し上げます。私達は本活動を進める上で夏休みや土日の休日を使用しました。「地元の環境は地元高校生の手で保全する」を合言葉に土壌改良資材を完成させた時は嬉しかったです。



地域に油を注げ！ 低炭素型 食の好循環づくり

丹後の自然を守る会

〒629-2262 京都府与謝郡与謝野町岩滝1789-1
☎0772-46-9044 <http://tangonoshizen.com/>



環境配慮農業を行ってきた農家と連携し、トラクターやコンバインでバイオディーゼル燃料を使用。できた農作物は、学校給食や、社会福祉法人が運営する宿泊施設で販売・使用されます。学校・宿泊施設・豆腐工場、そして地域の家庭で出されたてんぶら油は、回収して、また燃料に。当団体は、地域、行政、福祉施設、温暖化防止センター等と連携し「低炭素型食の好循環づくり」を進め、地域の魅力アップに努めています。

審査コメント

一年にドラム缶575本分の廃食油を回収し再生燃料を使った農機具で作物を生産するエコ活動は世の手本だ。

—— ウジエスーパー 取締役 吉田 芳弘

受賞者コメント

賞を頂けて大変嬉しく、応援して頂いた方々と喜びを分け合うことが出来ました。この受賞で本活動にさらなる自信を持つことができ、今後も食の好循環を広げ新たな活動の原動力にしたいです。ありがとうございました。



限界集落から始まる、地域と人を繋ぐ里山づくり！

上根来里山再生プロジェクト

〒917-0058 福井県小浜市大手町5-31 小浜市中央公民館 小浜市ボランティア・市民活動交流センター内
☎0770-53-2456 <http://www.kaminegori.com/>



失われつつある自然共生・循環型社会のモデルであった“里山”の価値を見直そうと、無住となった山村集落を舞台に、地域住民を始めとする地縁団体、地域内外のNPO、行政、企業、市民グループや有志個人などを巻き込み、その場に関わる多様な人材を活かして、地域資源の発掘、活用、保全といった様々な事業を展開しています。活動内容もさることながらその“取り組み方”も注目を受けているプロジェクトです。

事務局コメント

人が住まなくなった里山再生に元住民との協働連携がユニークと感じ、雪室など今後の発展に期待しています。

受賞者コメント

受賞まで出来たことは正直驚きで、大変光栄に思います。
私たちの取り組みはまだ道半ばのため、今後への期待の証であると受け止め、頑張っていきたいと思います。



「ネコロジー」を合言葉にした環境保護活動

ヤマトホールディングス

〒104-8125 東京都中央区銀座2丁目16番10号
☎03-3248-5918 <http://yamato-hd.co.jp/csr/environment/index.html>

ヤマトグループは創業100周年となる2019年に「社会から一番愛され信頼される企業」を目指しています。数多くの車両を保有し、生活道路を使用して事業を営む当社では環境の側面からお客様や社会の要望に応え、地域に貢献していかなければなりません。そこで社員やお客様が親しみを持って一緒に取り組めるよう、当社の環境保護活動の理念に「ネコロジー」と名づけ、活動の指針としました。

事務局コメント

最近よく見かけるようになった自転車の配達員は、しっかりした低炭素戦略の元に奔走しておられるとわかり感動しました。

受賞者コメント

この度は、「企画・審査委員特別賞」をいただき、ありがとうございます。「ネコロジー」を合言葉に、今まで以上に環境にやさしい物流の仕組みをつくり、社会変革に寄与してまいります。よろしく願いいたします。



「朝セリ」の実施と地元消費者をターゲットにした魚の地産地消プロジェクト

「石川の朝とれもん」プロジェクト事務局

〒920-8691 石川県金沢市西念4丁目7番1号
☎076-223-1382 <http://www.asatoremon.jp/>

このプロジェクトは、地元で朝獲れたばかりの新鮮な魚を当日中に流通し、地元での普及を目指す取組です。これまで、地元の朝獲れ鮮魚は翌日深夜のセリまで冷蔵され、セリを通った魚は県外に流出していたため、保管に電力を消費し、遠距離輸送分のCO₂が発生していました。当プロジェクトでは、保管することなく当日中に流通可能なシステムを創り、地産地消による周辺地域への流通を行うことでの環境負荷の軽減を目指しています。

事務局コメント

CO₂削減に貢献している点や、魚の鮮度を活かし、無駄な電力や輸送ガソリン等に視点を広げて工夫する独自性に感動しました。

受賞者コメント

「朝セリ」という流通システムにより、無理なく環境配慮を実現できることについて、環境への貢献と独自性が認められ受賞に至りました。この評価とこれからの期待に応えられるよう当活動を継続していきます。



省エネで街を元気に！ 『次世代郊外まちづくり 家庭の省エネプロジェクト』

次世代郊外まちづくり スマートコミュニティ推進部会

〒150-8511 東京都渋谷区桜丘町31-2 東急桜丘町ビル
<http://jisedaikogai.jp/>

『次世代郊外まちづくり』のモデル地区である、たまプラーザ駅北側地区を中心に、『スマートコミュニティ推進部会』と地域住民・事業者との連携によって推進する、省エネ・CO₂削減プロジェクト。住民の省エネ活動のために、電気とガスの使用量を同時にウェブ上で「見える化」。省エネ達成で、駅周辺で使える地域通貨を提供する、狭域でのエネルギーマネジメントの社会実験として、他に類を見ない参加者数を集めた取組みです。

